

学生アンケート調査結果の報告

2008年4月実施

原 征男・平野 緑*・高橋 徹**

愛知みずほ大学人間科学部

*愛知みずほ大学人間科学部

**愛知みずほ大学情報教育センター

本学では過去に2回、全学生を対象にした学生の意識調査を行ってきた。1回目は2000年4月に、2回目は2005年4月に実施した。これらの調査結果については、本学の「自己点検・評価報告書」(2001年度、2005年度)に報告している。また、新入生だけを対象にした調査は、2006年4月・2007年4月と毎年実施してきており、それぞれ「紀要」第1号及び第2号に報告した。今回は、2008年4月に実施した3回目の全学生対象調査の実施結果をまとめたものである。

まず、在学生対象の調査の回答数は次の通りで、2～4回生について279人の回答を得たが、これは全在籍学生に対して54.1%にあたる。回収率としては、前々回(00年)調査の45%は上まわったが、前回(05年)の71.5%には遠くおよばなかった。年度初のオリエンテーションのスケジュールの中で、回答のための十分な時間が確保できなかったこともあり、次回への大きな反省点である。学年別では、2回生では89.7%と高かったのに対し、3回生では67.4%、4回生では30.7%と4回生での回収率が大変悪かった。このため一部教員の協力を得て、授業時間を活用しての回収促進をはかったが、4回生には余り効かなかった。男女別では、女子の回答率が良く在籍者に対し69.2%、一方男子は30.1%と大きな差がついている(男女の記入のないものが1割強あるのもう少し高い)。また、学年の表示は進級直後でもあったため混乱があった模様である。(例えば心理コースの2回生女子では、在籍29名に対し回答数は32通ある。3回生が2回生と誤表示したものと思われる。)

回答総数

	2回生	3回生	4回生	計
健康科学コース	30	71	45	146
心理・カウンセリング	38	24	22	84
人間福祉コース	7	15	15	37
人間環境情報学科	3	4		7
不明		4	1	5
計	78	118	83	279

左記は在籍者の54.1%

資料

コース別の回収率は、健康=45.0%、心理=71.6%、福祉=62.1%、環境=31.8% である。

一方、新入生対象の調査は、上述の通り 05 年以降は毎年実施してきており、今回の回答者数はほぼ全員である。

回答総数 総計 90 名（男子=49 名、女子=41 名）

健康科学コース	41
心理・カウンセリングコース	28
人間福祉コース	15
人間環境情報学科	6
計	90

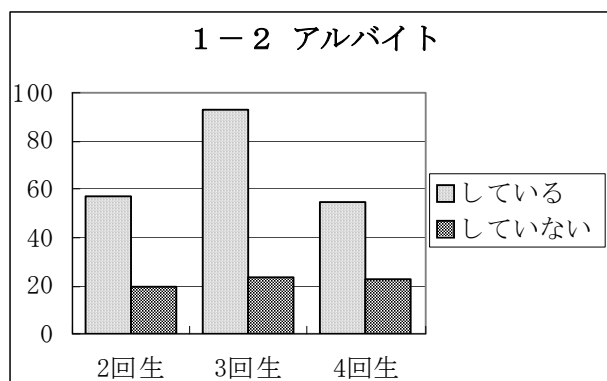
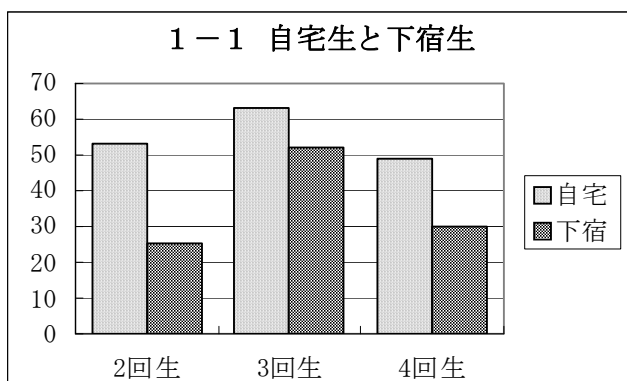
なお、使用した質問紙を参考 1（在学生用）、参考 2（1 年・編入生用）として報告末に付した。

I. 在学生対象の調査

Q1 生活について

(1) 自宅通学ですか、下宿していますか (グラフ 1-1 参照)

a. 「自宅通学」が 168 人 (60.9%)、b. 「下宿」が 108 人 (39.1%) で、自宅通学生が 6 割を超え、下宿生を上まわっている。前回は自宅生=54.8%、下宿生=44.9% であったので自宅通学生が増加してきている。学年別では、自宅生が 2 回生=67.9%、3 回生=55.2%、4 回生=62.0% である。前回はそれぞれ 62.2%、45.2%、52.0% であった。



(2) アルバイトをしていますか (グラフ 1-2 参照)

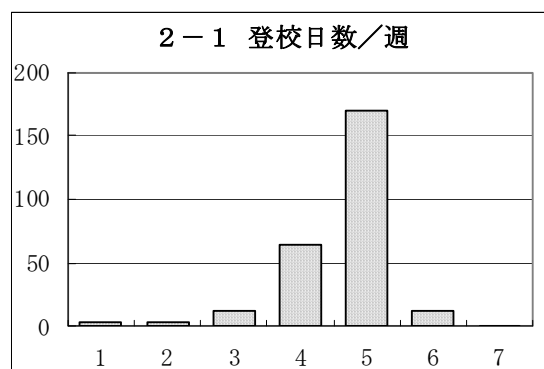
アルバイトを a. 「している」のは 74.5% (自宅生で 81.2%、下宿生で 66.7%)、一方、b. 「していない」のは 25.5% である。前回調査では、「している」=71.0% (自宅生=82.5%、下宿生=57.4%) であったのでアルバイト従事率は上昇している。前回同様自宅生の従事比率が高いが、むしろ下宿生でアップしてきているのが目立つ。学生にとって生活面のゆとりが減少している印象がある。男女別では、男子の従事比率が 77.8%、女子は 72.0% と男子の方が高い。

アルバイトの内容を記入してくれた人についてみると、平均して月に 12.3 回、64 時間ぐらい働いていて、収入は平均 61,500 円を得ている。前回は 13.2 回、65.8 時間で収入は 67,400 円であったので、前回より回数、時間、収入とも減少 (微減) しているが、回答者の女子の比率が前回より高かったのも影響しているかも知れない。いずれにしても学生生活の中でのアルバイトのウェイトが相当高いことは、学生の指導という面で十分踏まえておかななくてはならない。

Q2 この 1 年に週に何日ぐらい大学にきましたか (グラフ 2-1 参照)

この質問は、「実際にどれくらい学校にきたのか」を質問しているのだが、回答は実際に答えてくれたものもあるが、「建前」で回答したものも多かったと推察できる。

平均は 4.4 日で、5 日/週が 65.2%、4 日/週が 20.9%、3 日/週が 4.4% である。当然のことであるが、2 回生 (旧 1 回生) 4.9 日 → 3 回生 (旧 2 回生) 4.7 日 → 4 回生 (旧 3 回生) 4.4 日と進級により来学日数は減じているものの前回同様登校の比率は結構高い。1 日、2 日というのが各 3 名あった (3 回生に各 2 名)。[前回の平均は 4.2 日]



Q3 部活動等について

(1) 学内のクラブ・同好会に参加していますか (グラフ 3-1、2 参照)

a「参加している」が 38.5% [前回調査では 43.6%]、b「参加していたがやめた」が 11.6% [前回 11.5%]、c「参加していない」が 49.8% [前回 44.9%] で、H19 年度に大学側が把握している参加率 49.4% より低く、前回調査よりも低下している。登録クラブ数は増加しているが、クラブ参加率は低下し、学生数の減少と

合わせて各クラブとも部員確保に苦労していることがわかる。

学年別の参加率は、2回生=40.2%〔前回44.4%〕、3回生=39.1%〔前回48.5%〕、4回生=35.4%〔前回37.0%〕である。男女別の参加率では、男子が49.4%に対し女子は34.0%で、女子の参加率が低いのが顕著である。

自宅生/下宿生で対比してみると、自宅生の参加率24.8%〔前回は31.4%〕に対し、下宿生は57.9%〔前回は58.3%〕で、前回同様自宅生の参加率が低い。アルバイト（自宅生のほうがアルバイト従事率は高い）や通学に時間がとられていることも影響しているのだろうか。女子の自宅生の参加率は19.8%と低い。クラブ活動については「極力参加しよう」との大学側の基本姿勢からはもう一段のてこ入れが必要となっている。とりわけ女子・自宅生への働きかけが必要である。（参加率全体は他大学に比しては高い。）

また、「参加していたがやめた」は前回と差のない11.6%であるが、学年別では2回生=9.1%〔前回7.6%〕、3回生=12.2%〔前回12.6%〕、4回生=11.4%〔前回17.0%〕である。男女別では、男子の3.6%に対し、女子では15.4%である。参加をやめた理由を23名が記述してくれたが、時間的余裕の問題（バイトで忙しい、通学に時間がかかるなど）=7件、人間関係（いじめ、先輩や異性との関係など）=5件（全員女子）、つまらない（面倒であるなど）=5件、活発でない（自然消滅、人数少ないなど）=4件、勉強や学生会との両立が難しい=2件、体調不良=2件 などである。

（2）学外の同好会・サークル等に参加していますか

a「参加している」が9.0%〔前回調査では11.4%〕、b「参加していたがやめた」が1.5%〔前回0.8%〕、c「参加していない」が89.4%〔前回87.8%〕である。学年別では、4回生が13.0%と外部への参加率が高い。

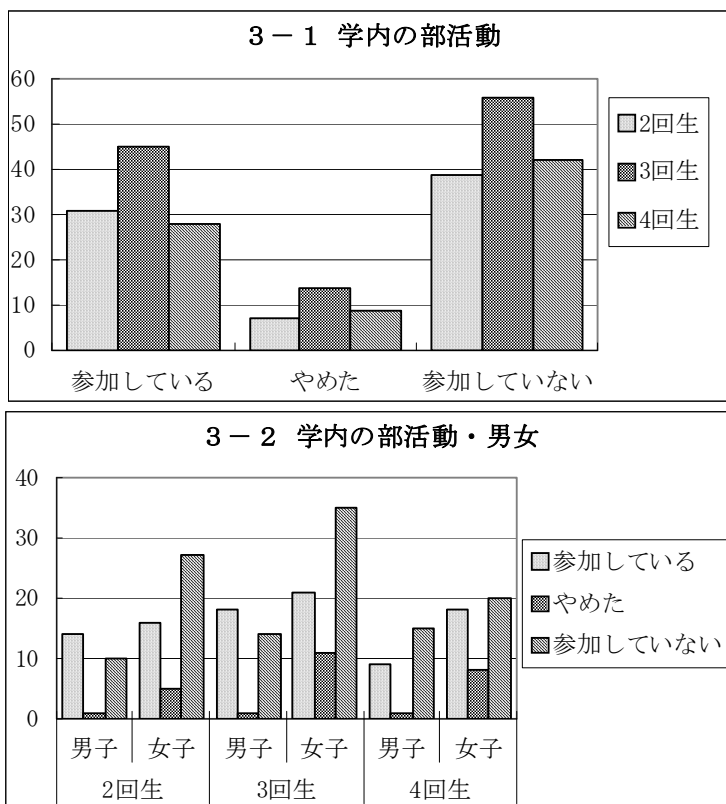
【今後の対応】

学生数の減少もあり、クラブの維持が難しくなっている。学生会とも相談・協力して、クラブ活動への参加奨励を強化していきたい。また、外部の人による本学施設の利用についてのルール化をはかりたい。

Q4（1）現在、不安なことや心配なことがありますか（グラフ4-1参照）

「不安・心配あり」と回答したのは166名（回答者の61.9%）で、複数回答で延べ321個の不安・心配が挙げられていて、1人当りは1.9個である。一方、「不安・心配なし」と回答した人は102名（38.1%）である。05年4月の前回調査では、「あり」が58.6%（1人当たり1.6個）、「なし」が41.4%（さらに前々回は「あり」が51.1%であった）と比べると最近の学生の不安・心配は増加してきているといえる。学年別に見ると、「不安・心配あり」の比率が2回生で54.5%、3回生で61.8%、4回生で67.5%と前回同様卒業が近づくと就職を中心不安・心配が増加している。男女別では、「不安・心配あり」が男子で62.7%、女子で62.3%と大差ない。

不安・心配の内容は、全体では①就職=29.6%〔前回調査では36.2%〕、②学習関係=19.3%〔前回21.3%〕、③資格取得=15.6%〔前回19.5%〕、④心身の健康10.3%〔前回7.6%〕、⑤経済的問題=7.8%〔前回5.5%〕、⑥友人づくり=7.5%〔前回3.2%〕、⑦異性関係=5.6%〔前回4.7%〕、⑧その他=4.4%〔前回2.0%〕の順位となっている。（○内は順位）



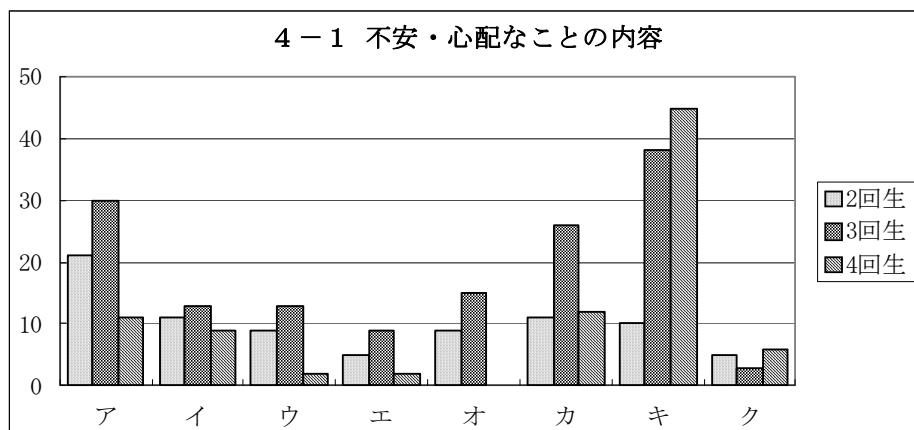
心身の健康、経済的問題、友人づくりなどでの増加しているのが気になる。就職は経済環境の好転（調査当時）の影響もあり、比率としては低下している。

4回生では、①就職=51.7%、②資格取得=13.8%、③学習関係=12.6%

3回生では、①就職=25.8%、②学習関係=20.4%、③資格取得=17.7%

2回生では、①学習関係=25.9%、②心身の健康=13.6%、②資格取得=13.6% である。

また、経済的問題では2回生=11.1%、3回生=10.2%なのに対し、4回生ではゼロである。



ア 学習関係
イ 心身の健康
ウ 友人作りや友人関係
エ 異性関係
オ 経済的問題
カ 資格取得
キ 就職
ク その他

続いて不安・心配の説明のうち主なものを示す。() 内の記述は基本的に多い順に記した)

ア学習関係 (62件) =単位関係(単位が取れない、落とした、不足しているなど)、授業内容関係(この先ついていけるか、理解できないなど)、卒業できるかなど、勉強の仕方・理解力など、教職関係(試験勉強など)

イ心身の健康 (33件) =体調など、ダイエット・太ったなど、精神的なもの(情緒不安定、過呼吸など)、食生活、疲れ

ウ友人関係 (24件) =付き合いが苦手、友人との関係、編入直後である

エ異性関係 (18件) =彼女が欲しいができない、異性が怖い、誰が好きなのか迷う

オ経済的問題 (25件) =カネが足りない、バイトのし過ぎ

カ資格取得 (50件) =資格が取れるか心配、実習の心配、教員採用、社会で役立つ資格がわからない、医療系資格を

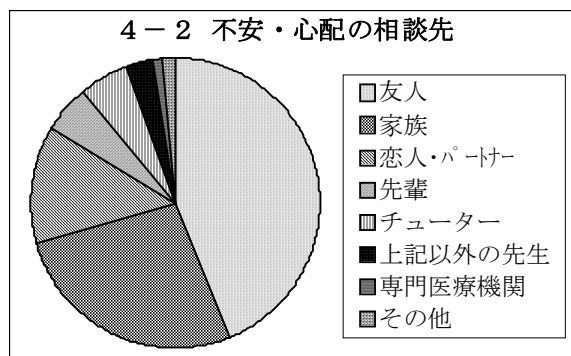
キ就職 (95件) =就職ができるか心配(不安、決まらないなど)、進路が決まらない(やりたいことが見つからない、何になるのかなど)、就職活動(ちゃんとした活動ができるか、スタートできていないなど)、夢がないなど、希望のところへいけるか、どこへ就職できるかわからない不安、教員になれるか、採用試験に自信がない

クその他 (14件) =母の病気、いじめられている、進学するか、実習関係、将来禿げるのでは

(2) 不安や心配があったとき、誰に相談しますか？ (グラフ4-2参照) ○内は順位

それでは、上記のような不安・心配があったとき誰に相談するかを聞いたところ、友人が圧倒的にトップ、次いで家族が多く、さらに恋人・パートナーがきて先生は4番目以下であった。次の通り。

- ①友人=238 (43.9%) ②家族=145 (26.8%) ③恋人・パートナー=70 (12.9%)
④担当チューター=30 (5.5%) ⑤先輩=29 (5.4%) ⑥チューター以外の先生=16 (3.0%)
⑦専門医療機関など=7 (1.3%)
⑧その他=7 (1.3%) (高校の先生、伯母、相談しないなど)

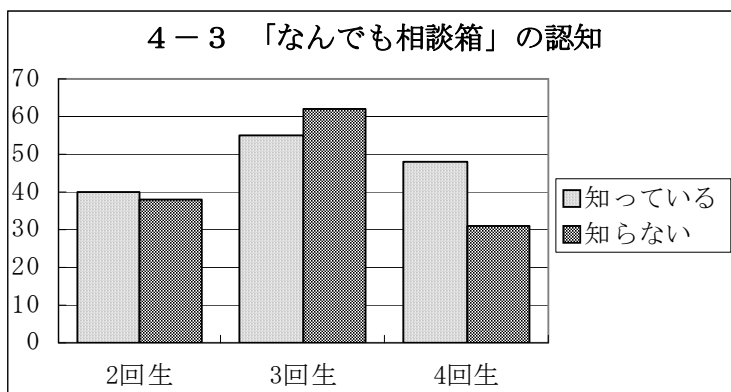


(3) 「なんでも相談箱」を知っていますか(グラフ4-3参照)

本学では、学生の不安や悩みには、基本的にはチューター制度で対応することとしているとはいうものの、これだけでは十分ではないため、常設のカウンセリング組織を持つ代りに、「なんでも相談箱」を設置して、学生の悩みがあればこれをきっかけに個別の相談・カウンセリングに結び付けていくこととしている。しかしながら、2年間の実績は「苦情申し入れ」が主体となってしまっている。そこで相談箱の認知度を確かめるととも

に不安・心配ごとの相談先としてのPRを意図してこの設問をおこなった。

その結果は、「知っている」が146名(52.5%)、「知らない」が132名(47.5%)と僅かに知っているが上まわった。3回生の認知度が低いのが気になる。



(4) 不安や心配ごとを抱えたとき、「なんでも相談箱」を利用しますか

次に、相談箱の利用可能性について聞いてみた。その結果は「利用したい」が150名(57.9%)、逆に「利用したくない」が109名(42.1%)となっている。

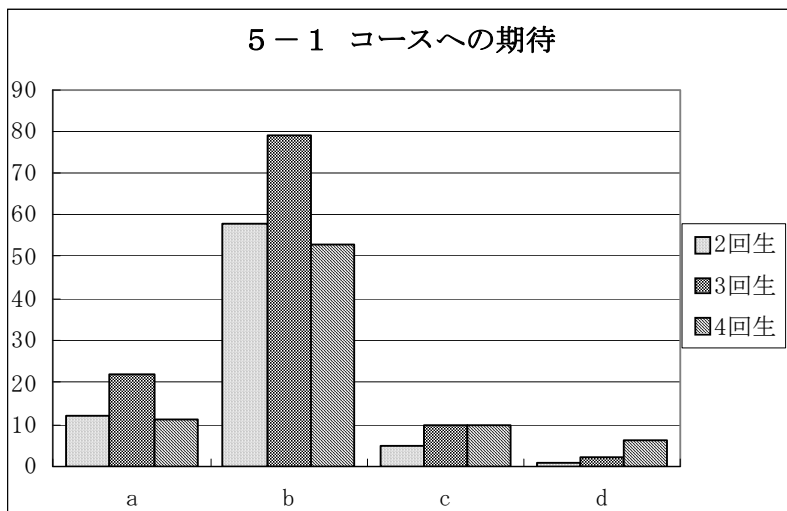
そこで「利用したくない理由」を聞いたところ、「自分のことをよく知らない人に相談するのはどうも…」(18件)、仕組みがよくわからず返事がもらえるかどうか(12件)、「親や友人で十分」(11件)、「何となく…」(10件)、「面倒である」(8件)、「関係ない人でややこしくなる」(7件)、「自分で解決する」(7件)、「話したくない、情報が流れる?」(5件)、「直接相談したい」(5件)であった。この制度のさらなるPRと運営充実の必要性とを痛感する。

【今後の対応】

学生諸君の不安・心配については、「チューター制」を中心に対応することとしてきたが、これを補完するものとして「なんでも相談箱」を設置し、これを個別案件にも対応するものとしている。したがって、「なんでも相談箱」のPRを十分にはかり、対応の仕方のシステム化を進め、より利用されるものとした。本制度では状況に対応して個別のカウンセリングなども実施することとしており、PRもはかる。

Q5 入学したコースは、入学前に期待していた通りでしたか (グラフ5-1参照)

a「期待通り」が16.8% [前回調査では23.0%]、b「どちらかといえば期待通り」が70.3% [前回52.9%]で、両者を合わせると87.2% [前回75.9%]と高い満足度を得ている。[]内数字の前回調査に比べて、aは低下しているが、bを合わせた比率は11.3%もアップしている。一方、c「どちらかといえば期待はずれ」は9.5% [前回17.3%]、d「期待はずれ」は3.3% [前回6.8%]で、合わせて12.8% [前回24.1%]と期待はずれは前回の半分に低下してはいるが、なお1割強の学生の評価は低い。(参考：前々回調査では、「期待通り」52.3%、「不満足」39.0%であった。)



「ウ、資格取得関連」24.3%、「カ、その他」24.3%、「イ、カリキュラムの内容・指導」16.2%、「エ、就職との関連」16.2%、「ア、希望した専門分野ではない」13.5%などである。具体的に指摘されている主な点は次の通り。

- a 期待通り
- b どちらかといえば期待通り
- c どちらかといえば期待はずれ
- d 期待はずれ

次に、cとdを合わせた「期待はずれ、」の内容を見ると、「ウ、資格取得関連」24.3%、「カ、その他」24.3%、「イ、カリキュラムの内容・指導」16.2%、「エ、就職との関連」16.2%、「ア、希望した専門分野ではない」13.5%などである。具体的に指摘されている主な点は次の通り。

- ◎「ア、希望した専門分野ではない」(5件)・インテリア・アパレル系の授業がない・住環境コーディネーターの勉強ができない など。(具体的指摘は人間環境情報学科の学生によるもの)
- ◎「イ、カリキュラムの内容や指導」(6件)・もっと広い心理学を学べると思った・開講科目をもっと多く

など。

◎「ウ、資格取得との関連」(9件)・介護福祉士の資格を取りたい・体育教員を目指すのにスポーツの場が少ない・試験対策が少ない など。

◎「エ、就職との関連」(6件) 指摘件数は6件あったが、具体的な記述はなかった。

◎「オ、進学との関連」(1件) 1件の指摘はあったが、具体的な記述はなかった。

◎「カ、その他」(9件)・授業の雰囲気ひどい・遠い・キャンパスが狭い・すべて など。

【今後の対応】

学生諸君の期待にある程度は沿えてはいるものの、指摘を受けた期待通りでない点については、関係者間で検討を続け改善をはかりたい。

Q6 チューターについて

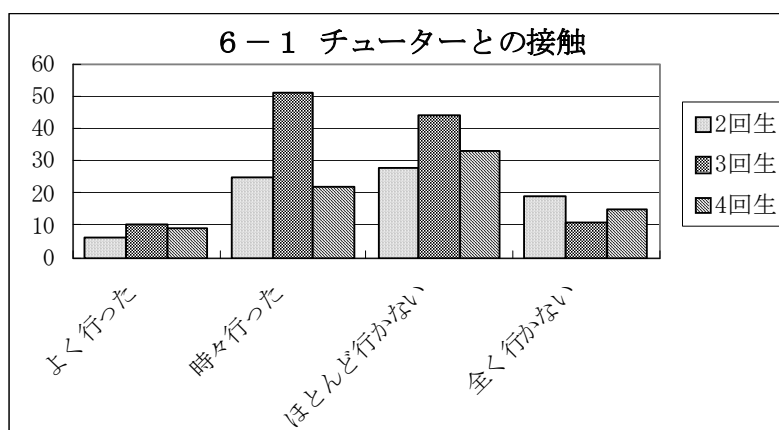
(1) 前年度のチューターの名前を知っていますか

a「知っている」が98.2%〔前回調査では97.3%〕と圧倒的であったが、b「知らない」が5名(1.8%、4名は2回生)もいるのは考えさせられる。

(2) 前年度、どのくらいチューターの所へ行きましたか (グラフ6-1参照)

a「よく行った」が9.0%〔前回調査では5.9%〕、b「時々行った」が35.7%

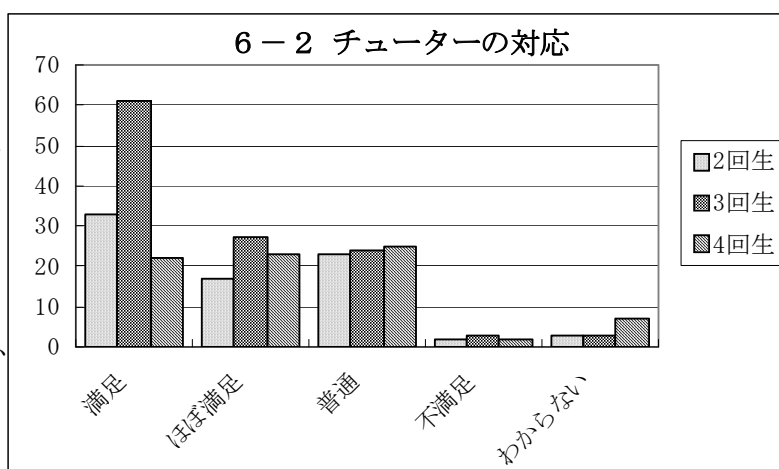
〔前回34.8%〕、c「ほとんど行かなかった」が39.0%〔前回46.0%〕、d「全く行かなかった」が16.2%〔前回13.4%〕となっていて、前回よりは少し多く行くようになったが、aとbを合わせても45%程度と物足りない。特に、dの「全く行かなかった」の比率は前回より増加している。



学年別では、a,b合わせて、2回生が39.8%、3回生が52.6%、4回生が39.2%となっている。2回生(前年度新生)には特に接触の機会を多く持つ努力をしてきた筈だが、「全く行かなかった」の回答が24.4%にも達している。

(3) チューターの対応について満足していますか (グラフ6-2参照)

a「満足している」が42.3%〔前回調査では35.6%〕、b「ほぼ満足している」が24.0%〔前回26.7%〕、c「普通である」が26.5%〔前回30.2%〕、d「満足していない」が2.5%〔前回4.8%〕、e「行かなかったのだからわからない」が4.7%〔前回2.7%〕となっている。aとbを合わせて66.3%〔前回62.3%〕で、「満足していない」も半減しており、前回調査に比較して満足度は向上している。個別の調査回答でも「行かなかったが、満足している」旨の回答もかなりあり、チューターとの信頼関係ができている様子の学生も目立った。



男女別の満足度では、男子が a、b 合わせて 73.8%であるのに対し、女子は 61.6%と、女子が辛い傾向が明白に出ている。

学年別では、a と b を合わせて、2回生 64.1%、3回生 74.6%、4回生は 56.9%（回答の 2/3 が女子）で、3回生の満足度が高くなっている。

d「満足していない」のコメントでは「心理コースのことがわからなさ過ぎる」「余り状況を把握していない」「何となく頼りない」などチューター側に反省すべきものが多くみられた。

なお、前々回の調査では、「満足」31.3%、「普通」60.5%、「不満足」8.2%であったので、改善は進んでいると評価できる。

【今後の対応】

「チューター制度」は本学の学生諸君への対応の根幹をなす制度であり、対応の充実をはかるべく各チューターの一層の意識と知識の向上をはかりたい。また、接触の機会を増すことも重要と考えており、「オフィスアワー」などを活用して学生諸君からのアプローチの増加を促進したい。また、編入生への初期の指導充実の必要性を感じており、具体的な施策を検討したい。

Q7 本学の教員の指導について、総合的に見てどう思いますか（グラフ 7-1、2 参照）

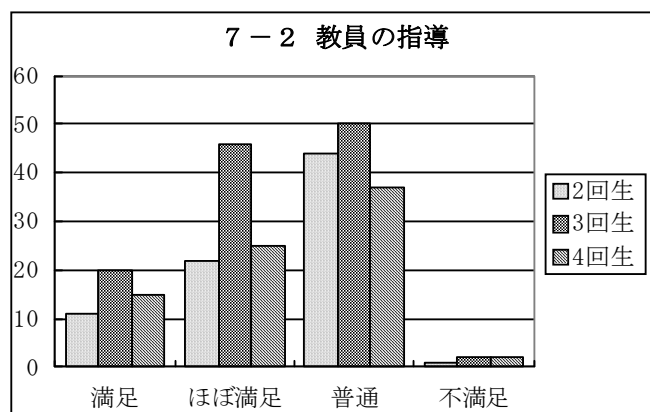
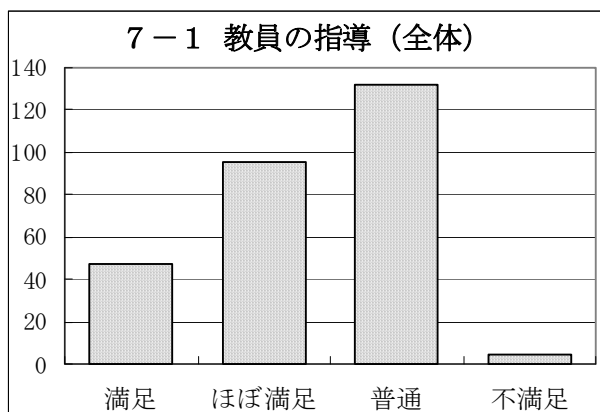
a「満足している」16.8%〔前回調査では 9.2%〕、b「ほぼ満足している」34.1%〔前回 42.5%〕、c「普通である」47.3%〔前回 43.1%〕、d「満足していない」1.8%〔前回 5.1%〕となっている。a と b を合わせると 50.9%〔前回 51.7%〕で、a は増えたがトータルでは大差ない。d の「不満足」は減少したが、c の「普通」の評価が増えている。

前々回の調査では、「満足」19.0%、「普通」74.0%、「不満足」6.2%であったので、FD 活動の推進などにより改善は進んでいると評価できる。

学年別では、a と b を合わせて、2回生で 42.3%（うち a が 14.1%、逆に d は 1.3%）、3回生では 55.9%（a は 16.9%、d は 1.7%）、4回生では 50.6%（a は 19.0%、d は 2.5%）となっている。3回生での評価が高くなっている。

男女別で見ると、男子が a と b を合わせて 56.0%（うち a が 27.4%）であるのに対し、女子は 47.0%（a が 10.4%）、d についても男子が 1.2%に対し女子が 2.4%と女子学生の方が厳しい傾向がみてとれる。

学科・コース別に見ると、a、b を合わせて健康が 44.1%（うち a は 11.7%）と低く、心理は 52.4%（a は 20.2%）と平均に近く、福祉は 78.4%（a は 27.0%）と高い評価を得ている。環境は回答数も多くはないが、25.0%（a も 25.0%）と低い評価になっている。d「不満足」は健康で 3.4%であるが、心理・福祉・環境ではゼロである。d の評価は全体で 5 名であるが、具体的には「連絡の取れない先生がいる」「ひいきのようなことがある」「ひねくれ者が多い」などの指摘があった。



【今後の対応】

本学では、授業の改善（ファカルティ・ディベロップメント=FD と総称）は大切な課題と考え、教育研究推進委員会を中心に早くから推進してきている。しかしながら、前回より満足度が十分に伸びていない点を反省してさらに改善に努力したい。また、学生諸君には「オフィスアワー」などを活用して、学生が積

極的に教員にアプローチされることを促進したい。

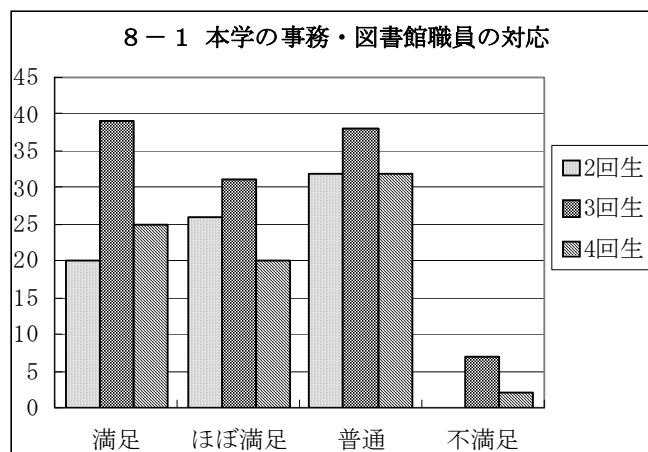
Q8 本学の事務職員・図書館職員の対応についてどう思いますか（グラフ8-1参照）

a「満足している」が31.2%〔前回調査では25.9%〕、b「ほぼ満足している」が28.6%〔前回32.1%〕、c「普通である」が37.0%〔前回37.2%〕、d「満足していない」が3.3%〔前回4.9%〕となっている。aとbを合わせると59.8%〔前回は58.0%〕で約6割の学生から一応の評価を得ている。前回からaは増えたが、aとbトータルでは大差なく、dの「不満」は減少したが、cの「普通」の評価は多い。dの「満足していない」は全体で9名であるが、具体的には「対応の良くない人がある」「資料・本が少ない(もっと医療分野の本を)」「閉門時間が早い」「融通がきかない」などの指摘があった。

前々回の調査では、「満足」14.4%、「普通」63.1%、「不満」22.5%と著しく評価が低かったことを考えると大きく改善されてきている。

学年別では、aとbを合わせて、2回生が58.9%（うちaが25.6%）〔前回はa,bで57.5%〕、3回生が60.9%（aが33.9%）〔前回54.8%〕、4回生が56.9%（aが31.6%）〔前回62.0%〕で、3回生で満足度が高く、4回生が低めである。

男女別では、aとbを合わせて、男子が71.5%（うちaが40.5%）であるが、女子は52.2%（aは24.2%）で大きな差があり、ここでも女子学生の評価の厳しさがうかがえる（特に4回生女子では45.7%と評価が低い）。



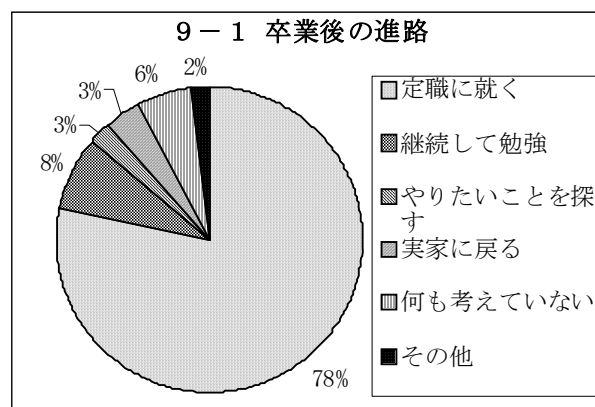
【今後の対応】

事務職員・図書館職員は地味ではあるが、大学の教育や学生の学業・生活を支えてくれる大切な心強いスタッフである。前々回の調査以降学生からの評価も向上してきている。これからも学生から大いに頼りにされる事務室になるべく努力を続けたい。ただし、提出期限や奨学団体の規定を守るために、ときに厳しく対応することもあることを理解してもらい、協力を得ていきたい。図書館の開館時間の延長は要員面の問題もあり、改善を図ったが引き続き検討していきたい。

Q9 現時点では、卒業後の進路をどのように考えていますか（表9-1、2、グラフ9-1、2参照）

卒業後の進路を尋ねた結果は表9-1の通り。回答総数318のうち、a「定職について働く」が最も多く78.3%〔前回調査では83.6%〕、次いでb「知識を深めるため勉強する」が7.9%〔前回5.8%〕、e「今のところ何も考えていない」が6.0%〔前回5.8%〕、d「実家に戻る」が3.5%〔前回1.1%〕、c「定職にはつかず、やりたいことを探す」2.5%〔前回2.2%〕、f「その他」1.9%〔前回1.3%〕である。（複数回答になっている）一時のフリーター志向は減少しているとの実感はあるが、数字面では不明確である。「何も考えていない」との回答が、2回生で16.3%いるのはやむを得ないが、4回生でも4.3%（全員女子）もいる。この回答者の数は19であるが、うち14が女子である。

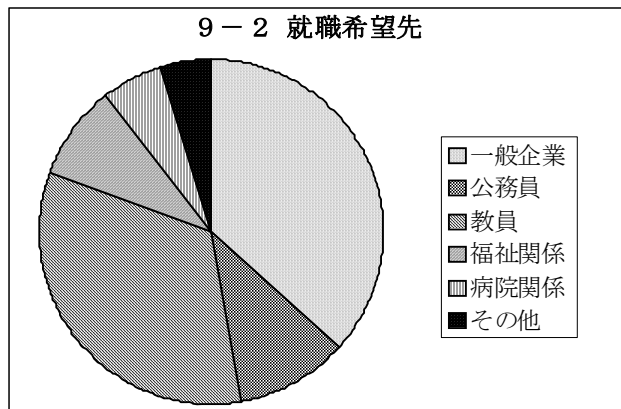
a 定職に就く	249
b 知識を深めるため勉強	25
c 定職に就かず、探す	8
d 実家に戻る	11
e 今は何も考えていない	19
f その他	6
回答総数	318



bの「勉強する」の内容としては、専門学校(11)、大学院(9)、留学(3)、その他(3)など。cの「定職につかず、探す」では、ボランティア(3)、フリーター(3)など。dの「実家」では、家業の手伝い(2)、家事手伝い(2)など。fの「その他」では、他大学編入、結婚相手の家業の手伝い、役者になる、わからない などである。

次に、a「定職に就く」と回答した学生の就職希望先を見ると表9-2の通りである。

希望先	人数
ア、一般企業	101
イ、公務員	29
ウ、教員	92
エ、福祉関係	25
オ、病院関係	16
カ、その他	13
回答総数	276



就職希望先では、ア「一般企業」希望が最も多く36.6%〔前回調査では26.3%〕、次いでウ「教員」が33.3%〔前回31.2%〕、イ「公務員」10.5%〔前回17.2%〕と続く。エ「福祉関係」9.1%〔前回15.1%〕、オ「病院関係」5.8%〔前回6.7%〕、カ「その他」4.7%〔前回3.5%〕。雇用状況の回復で一般企業が増加、教員希望も根強く、公務員・福祉関係が低下している。(複数回答) 「その他」に挙げられているのは、美容、インストラクター、サービス業、ラジオ局、わからない など。

【今後の対応】

卒業後の進路は学生にとっての最重要事であると認識している。就職全般については就職指導室が対応し、教職への道の指導については担当教官がおこなうが、チューターを含め大学全体でサポートしていくので十分相談するよう指導していく。

Q10 通学手段などについて

(1) 通学に何を利用していますか (表10-1、グラフ10-1参照)

結果は下表10-1の通りである。h「その他」との回答者20名のうち「自動車・クルマ」と明言したのは15名(3回生=9、4回生=6)で、本学の「クルマ通学禁止」を意識して正直に答えなかったケースも想定できる。

(cのバスにはスクールバスを含む)

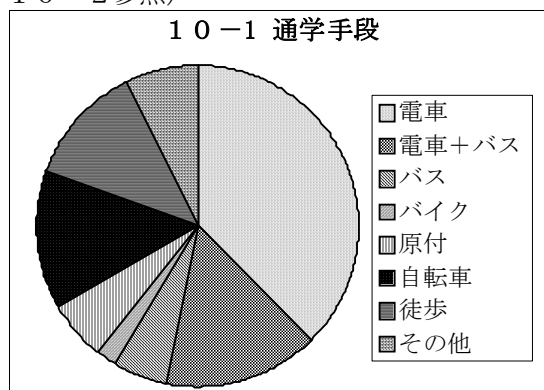
通学手段	人数	割合	通学手段	人数	割合
a 電車	104	37.5%	e 原付	17	6.1%
b 電車+バス	43	15.5%	f 自転車	38	13.7%
c バス	15	5.4%	g 徒歩	34	12.3%
d バイク	6	2.2%	h その他	20	7.2%

(2) スクールバスを利用していますか (表10-2、グラフ10-2参照)

10-2 スクールバスの利用

利用状況	回答数	利用率	前回利用率
a よく利用している	50	18.6%	17.4%
b 時々利用している	66	24.5%	30.2%
c 利用していない	153	56.9%	52.4%

結果は上表10-2の通りで、「よく利用している」18.6%、「時々利用している」24.5%を合わせて43.1%であるが、



前回調査時の 47.6% に比べて利用率が低下している。利用の少ない下宿生も減少しており利用率の低下は、原付などの増加や自動車通学の増加も影響しているのだろうか。

続いて、a と b を選んだ人にスクールバスの評価を聞いたところ、96 名が回答してくれた。ア「ほぼ満足している」64.6% [前回調査では 48.4%]、イ「満足していない」35.4% [前回 51.6%] となっていて、調査時期はバス会社変更の直後であったが、十分ではないが改善は進んでいる。(a「よく利用する」人の評価では満足が 60.5%、不満足が 39.5%であった。)

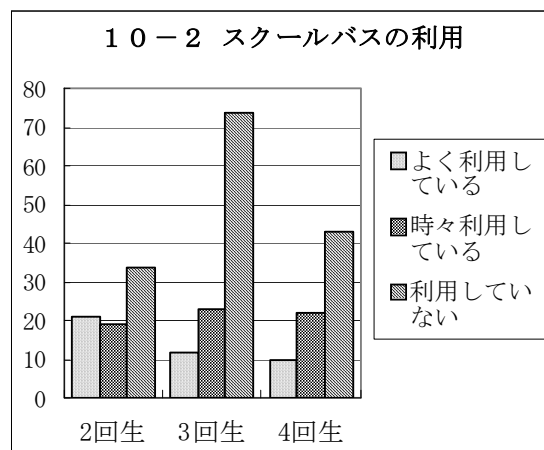
「満足していない」34 名の記述の主なものは次の通り。

◎「バスの本数が少ない、増やして欲しい」=15

◎「時間通りに来ない、着くのが遅い」=6

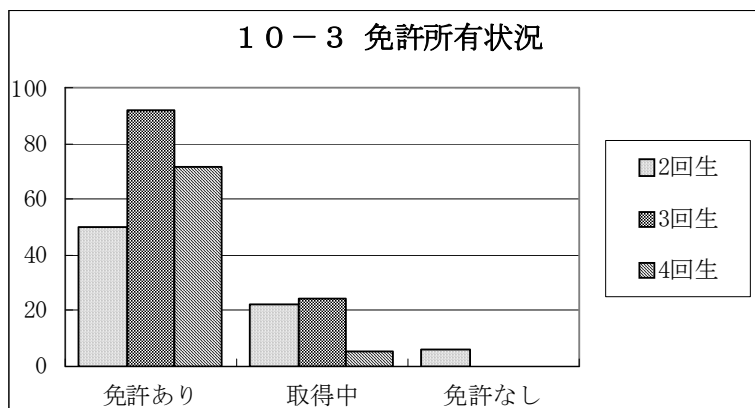
◎「時間の調整を」=7 (2 限後に、1 限に不便、時間の見直しを、もっと遅くまで、終バスを早く)

◎その他=「バス停がわかりにくい」「運転が雑」「知立発は不要」「赤池行を増やして」「新豊田より豊田市から」「バスが小さい」「椅子が座りにくい」「名鉄のほうがよかった」「混んでいる」「押すボタンがない」など



(3) 運転免許を持っていますか (グラフ 10-3 参照)

この質問に対し、「運転免許あり」が 216 名 (78.8%)、「運転免許なし」が 51 名 (18.6%)、「現在取得挑戦中」が 7 名 (2.6%) となり、「あり」と「取得中」を合わせると 81.4% と 8 割を超える高率となった。この率は、2 回生で 71.8%、3 回生で 79.3%、4 回生では 93.8% と学年を追って免許保有率は向上していて、大学に入学すると「車校」(=自動車学校)に行くのがお決まりのコースになっている実感と一致する。



次に、免許保有者に、「自分が主に使用できるクルマを持っているか」を聞いたところ、83 名 (免許保有者の 38.4%) が「はい」と答えている。また、「自分が主に使用できるバイク (除原付) を持っているか」には 29 名 (免許保有者の 13.4%) が「はい」と答えている。両者に重複する人を調整すると、自分が主に使用できるクルマ・バイクを持っている学生は、103 名 (免許保有者の 47.7%、全体の 37.6%) で、免許保有学生の半数近くが「自分が乗れるクルマ・バイク」を持っていることになる。

本学では、原則として通学にクルマ・バイク (除原付) を使用することを認めていないが、「クルマ・バイクを通学に使ったことはありますか」の質問に正直に「はい」と答えたのは 61 名で、免許保有者の 3 割近く (28.2%) になっている。「免許あり」で「通学に使ったことはない」と明言しているのは 47 名で、免許保有者の 21.8% に過ぎない。クルマ通学関連のトラブルが多いのも「むべなるかな」である。

【今後の対応】

スクールバスは、費用などとの兼ね合いもあり、難しい問題である。出された意見も参考にして今後も改善を検討していくが、今後も意見・要望等があれば聴いていきたい。

本学は、教育的・社会的・物理的見地からクルマ通学は認めていないし、この方針は今後も不変である。しかしながら、学生の 8 割が免許を保有し、その 3 割ほどが通学に使用したことがあるとの現実を前にして、何らかの対応を考えなくてはならない時期にきていることも確かである。

Q11 本学の良い点、悪い点について聞かせてください (グラフ 11-1 参照)

(1) 良い点は何ですか

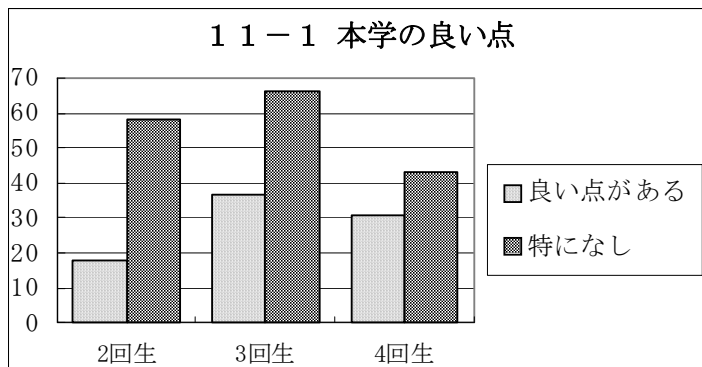
254名が回答してくれたが、a「良い点がある」が86名・33.9%〔前回調査では27.9%〕に対し、b「特に思い当たらない」が168名・66.1%〔前回72.1%〕となり、前回よりは少し向上したものの依然2/3は思い当たらないとの回答である。

学年別では、aが2回生=23.7%、3回生=35.9%、4回生=41.9%と年次を追って上昇しているのは光明である。

学科・コース別では、aが健康=33.5%、心理=35.5%、福祉=26.5%、環境=50.0%と、福祉で低く、環境で高くなっている。男女別では、aが男子で31.2%、女子が35.8%で、ここでは男子の評価が厳しい。

良い点として、具体的に挙げられたのは83件である。整理すると

- ◎ 先生との交流が多い、親しみやすい、何でも話せる、親身に対応など = 28
- ◎ 少人数、小ささの良さ(知り合える)、フレンドリー、友人と深くつきあえるなど = 21
- ◎ 授業がわかりやすい(少人数授業)、きめ細かい指導、講義が面白いなど = 9
- ◎ アットホームな雰囲気(明るい)、ほのぼのとした雰囲気など = 9
- ◎ 静かで、自然・緑が多いなど = 5
- ◎ 施設がきれい、トイレがきれいなど = 4
- ◎ その他、・食堂(=3)、大学の干渉が少ない(=2)、学科に関係なく選択できる、就職に熱心 など



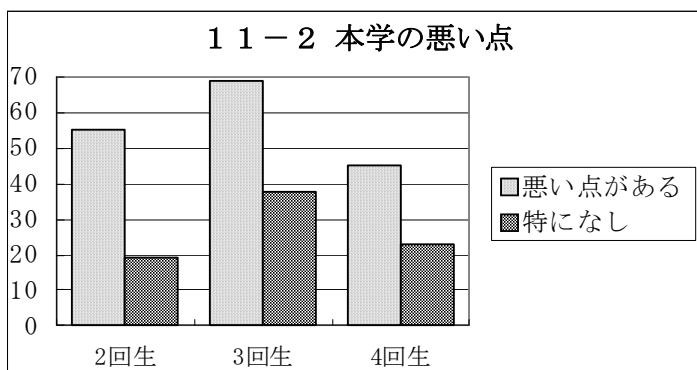
(2) 良くない点は何ですか (グラフ1 1 - 2 参照)

252名が回答してくれたが、a「特に思い当たらない」が171名・67.9%〔前回調査では49.9%〕に対し、b「良くない点がある」が81名・32.1%〔前回50.1%〕となり、前回よりは向上したが、なお1/3は良くない点ありと回答している。学年別では、bが2回生=25.7%、3回生=35.5%、4回生=33.8%で、3回生で厳しいが大差はない。

学科・コース別では、bが健康=36.9%、心理=27.6%、福祉=26.5%、環境=50.0%と、健康・環境で厳しく、福祉・心理で評価が高い。男女別では、bが男子で36.7%、女子で32.2%と(1)同様男子が厳しく見ている。

良くない点として、具体的に挙げられたのは73件である。整理すると

- ◎ 市街から離れ、通学に不便(立地の悪さ、駅から遠い、交通の便も悪い) など = 13
- ◎ 駐車場がなく、クルマ通学ができないなど = 11
- ◎ 私語など授業がうるさい、学生のマナー・態度の悪さなど = 9
- ◎ 小さく、学部がひとつで大学の感じがしない(人も少ない) など = 8
- ◎ 食堂(狭く、高い)、お店がない、購買が不十分など = 7
- ◎ グランド、食堂など設備面が不十分、施設の開放時間の問題など = 6
- ◎ 充実していない講義がある、講義内容など = 3
- ◎ その他・人数が減りすぎ、教職についての情報が少ない、成績がわかるのが遅い、エレベーターが使えない、教員試験対策をもっと、タバコ対策(健康を標榜している)、評判が良くない、サークルやイベントが少ない など



Q11において、「良い点なし」「良くない点なし」と、この設問に関心を示さなかった回答者が131名(全回答者の47.0%)と半分もあつたのは気になる点である。

【今後の対応】

長所と短所は裏腹の関係であると言われる。本学の特徴である、少人数、小規模、郊外立地といった点は短所としても挙げられているが、学生/先生の距離感がなく交流が多い、学内で友人とも深く付き合える、アットホームな雰囲気、静かで緑が多いなどと長所として多くの学生の評価も得ている。長所は今後も伸ばしていきたい。一方、短所として指摘された点については、謙虚によく考えてみたい。その中で、私語などで授業がうるさい、学生のマナーの悪さなどについては、学生自身の問題でもあるので学生を巻き込んで改善を考えていきたい。また、前回調査ではなかったクルマ通学に関連する問題が今回初めていくつか指摘されている点は考えさせられる。

本学ではセクハラ防止のため「セクハラ防止に関する規定」を設け、同時に相談員（学生、教職員担当）を公示してきている。さらに、学生に対しては、学生向けの「HANDBOOK」に方針や規定を掲載するとともに、入学直後のオリエンテーションでこれらについての説明・意識喚起をおこなってきている。幸い今まで「卵」のような出来事はあったが、それ以上には到っていない。今回はじめてこれについての調査を実施した。

Q12 セクシャル・ハラスメント（セクハラ）について

(1) 「セクハラ防止規定」や相談員を定めていますが、これらを知っていましたか（表・グラフ 12-1 参照）

規定・相談員の認知度は、下表（12-1）の通り。（学年の合計や男女の合計が総合計と一致しないのは、学年・性別の記入のない回答があったため。学年不明=3、性別不明=27）

	2回生	3回生	4回生	総合計	男子	女子
a.規定も相談員も知っている	4(5.3%)	8(7.1%)	12(15.4%)	25(9.1%)	9(11.1%)	14(8.7%)
b.規定は知っている	22(28.9%)	48(42.9%)	37(47.4%)	109(40.5%)	30(37.0%)	70(43.5%)
c.相談員は知っている	2(2.6%)	5(4.5%)	1(1.3%)	8(3.0%)	3(3.7%)	5(3.1%)
d.規定も相談員も知らない	47(61.8%)	51(45.5%)	28(35.9%)	126(46.8%)	38(46.9%)	72(44.7%)
e.その他	1(1.3%)	—	—	1(0.4%)	1(1.2%)	—
合計	76	112	78	269	81	161

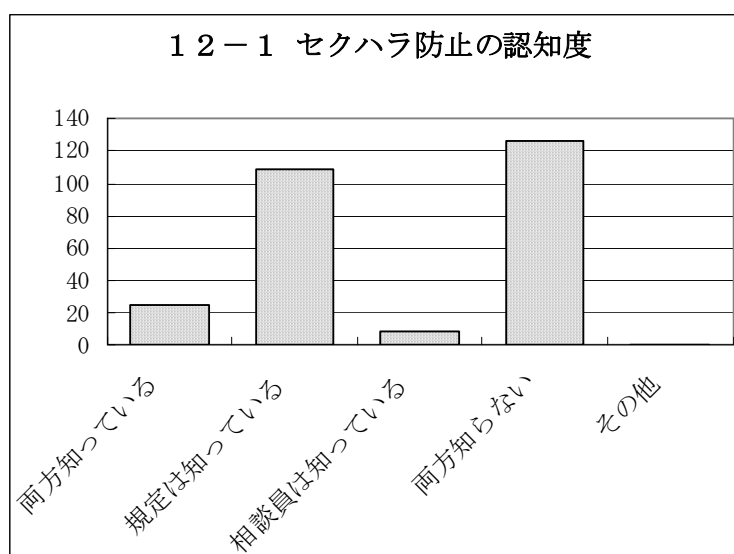
予想通りとはいえ、a「規定・相談員とも知っている」が9.3%、b「規定は知っている」が40.5%、c「相談員は知っている」が3.0%、d「規定も相談員も知らない」が46.8%で、a、b、cを合わせてやっと半分を超える状況であった。男女別では、a、b、cを合わせて女子が55.3%で、男子の51.8%よりは高いが、やや物足りない感じである。学年別では、dが2回生=61.8%→3回生=45.5%→4回生=35.9%と減少していて、学年が進むにつれ認知度が上昇しているのは救いである。今後も一層の制度の認知度・セクハラ防止意識の向上に努める必要を痛感している。

(2) 学内でセクハラを受けたり、感じたりしたことがありますか

274名が回答してくれたが、97.4%の267名はb「ない」と回答した。微妙な問題ではあるが、a「ある」と回答したのは7名で、内訳は男子2、女子4、性別不明1である。学年では、2回生=3、3回生=3、4回生=1である。

当然のことながらこれらの取扱いは慎重にしなければならないが、

「①どんなケースでしたか」に対しては、A「教職員から」=2、b「友人・先輩などから」



=5 (うち男子 2) である。

「②その時どうしましたか」 に対しては、イ.「我慢して無視した」=6 (うち男子 1)、ウ.「相談員・友人に相談した」=1 (男子) である。

「③その時の状況 (教えられる範囲で)」 に対しては、記述が 3 件あった。

・「先輩から浮気相手になってくれと言われた」 ・「空いている部屋に閉じ込められた」 ・「着替え、廊下歩行中、授業中」 (具体的には不明)

と深刻にとらえるべきものもある。

(3) ストーカー被害にあったことがありますか

8 件が報告された (2 回生=3、3 回生=4、4 回生=1、うち 7 名は女子で不明が 1 名)。合わせてその状況を (教えられる範囲で) 聞いたところ 7 件の記述があった。これによると、被害報告の時期は、高校 (中学) 時代が 5 件で、あと 3 件は時期不明である。具体的には、高校時代では、「元彼からのしつこいメール」「元彼につけられた、物の紛失も」「知らない人に待ち伏せされた」「盗撮にあった」など。時期不明では、「バイト終了後つけられた」「商店街の HP 担当者からメール、電話、家の前で待ち伏せ」 などである。本件からは、現在の社会状況から考えて十分な注意が必要なることをあらためて認識させられる。

【今後の対応】

入学時オリエンテーションなどでの認知度向上、セクハラ防止意識の向上に努めたい。また、相談員の掲示の仕方なども工夫をし、全学挙げてセクハラ防止に取り組んでいる姿勢を明確にしていきたい。ストーカー対策として専門家による「護身術」の講話をお願いしたことがあるが、そんな企画も考えていきたい。

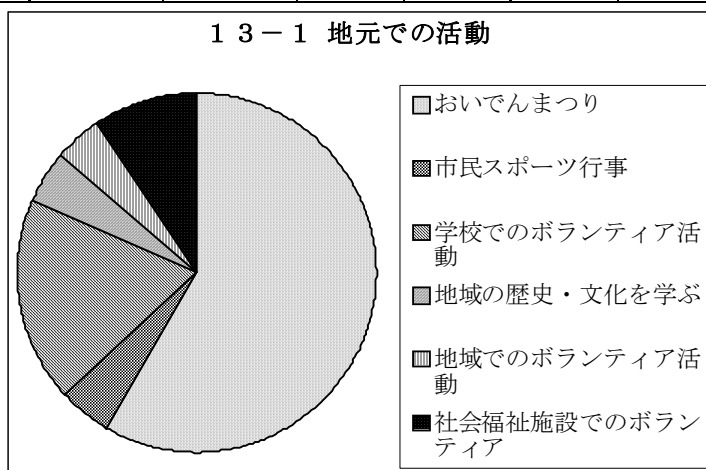
Q13 本学は「社会に向き合う大学」として、豊田市や大学周辺地域との関係を重視しています。豊田市や周辺地域で行われる活動に参加してみたいと思いませんか

全回答者 279 名のうち 195 名 (69.9%) が何らかの活動に参加してみたいと回答してくれた。(下表 13-1) 7 割の学生が地元での活動に関心を持ってきているのは嬉しい限りで、学年別でも大差はなかった。

1 3 - 1/地元での活動	2 回生	3 回生	4 回生	(不明)	合計	
a.豊田おいでんまつり	3 0	5 0	3 0	2	1 1 2	47.7%
b.市民を対象にしたマラソンなどのスポーツ行事	3	2	5		1 0	4.3%
c.市内の小・中学校でのボランティア活動	6	2 0	1 7		4 3	18.3%
d.環境や歴史・文化など地域のことを学ぶ行事や講座	3	6	5		1 4	6.0%
e.本学学生がおこなう地域でのボランティア活動	7	9	6		2 2	9.4%
f.社会福祉施設などでのボランティア活動	1 2	1 3	8	1	3 4	14.5%
上記の何らかの活動に○をつけた人数	5 4	8 2	5 6	3	1 9 5	69.9%
無回答の人数	2 4	3 6	2 3	1	8 4	30.1%
回答者合計	7 8	1 1 8	7 9	4	2 7 9	

参加したい活動では、夏の「豊田おいでんまつり」が半数近くを占めたが、「c 学校でのボランティア活動」/「f 福祉施設ボランティア活動」/「e 本学学生の地域ボランティア活動」(まちづくりの会、清掃活動)などの広くボランティア活動も 4 割を超える関心を集めた。次いで「地域のことを学ぶ機会」「市民スポーツ行事」などである。(グラフ 1 3 - 1 参照)

こうした学生の関心・意欲をうまくサポートすることをはかることが必要である。



【今後の対応】

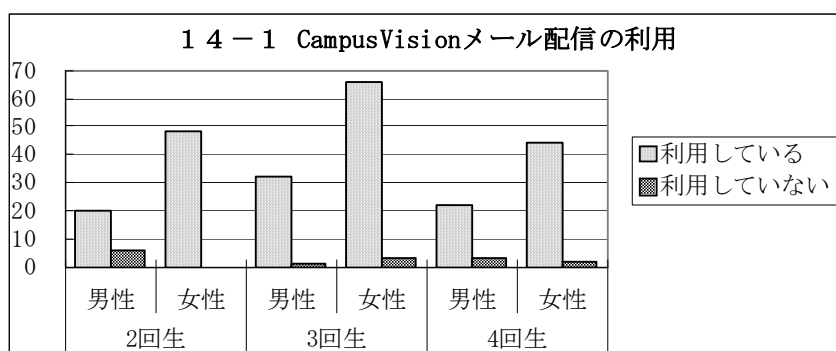
大学には、ボランティアの募集や地域行事への参加要請など多様な情報が寄せられる。しかし、現状ではそれらの情報は学内に散逸し、どこにどのような情報があるか、相談窓口はどこ(誰)かなど、学生にとってはわかりにくい状態であると思われる。せつかくの意欲や希望のエネルギーが地域や社会に繋がっていけるよう、教務部としては、まず ①情報提供場所(キャンパスヴィジョンではなく、掲示による情報提供)の明確化(特定化)、②情報提供様式の検討(大学にきた情報をそのまま掲示するだけでなく、活動に参加するために最低限必要な情報項目の統一)に取り組みたい。

今回の調査では、2004年秋から導入した「キャンパスヴィジョン」についてもその活用状況を調査した。

「CampusVision」とは、Web(パソコン、携帯電話)からアクセスする学生ポータルサイトで、学生は自分自身の時間割やスケジュールの表示に加え、大学からの連絡事項(お知らせ、呼出、休講、補講、教室変更等)を確認することができる。また、大学からの連絡事項に関しては、学生自身は希望する情報に限ってのみメールにて受信することも可能である。

Q14 キャンパスヴィジョンについて伺います。

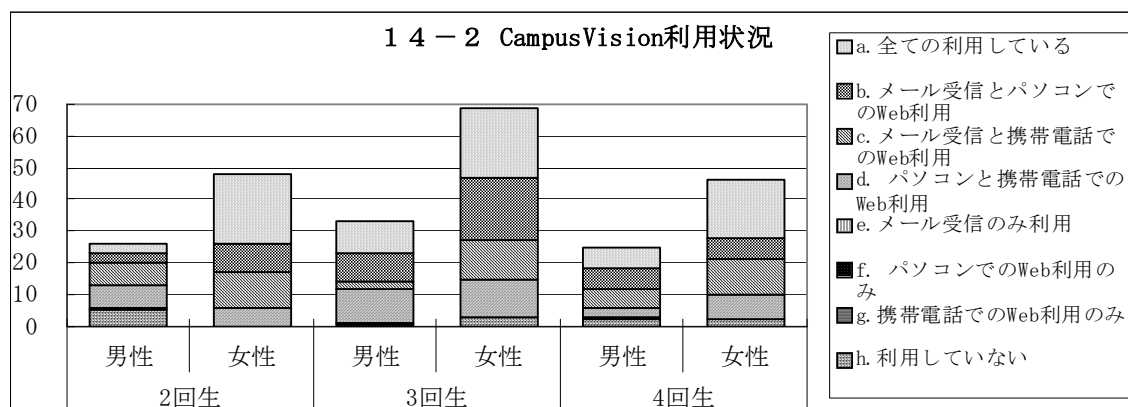
(1) CampusVisionのメール配信機能を利用していますか。(グラフ14-1参照)



CampusVisionの利用状況を調査し、247名(88.5%)から回答を得る事ができた。回答の詳細はa「利用している」が235名・95.1%に対しb「利用していない」が12名・4.9%となり、大半の学生がCampusVisionを利用している事が伺える結果であった。

(2) CampusVisionの利用形態に関する質問(グラフ14-2参照)

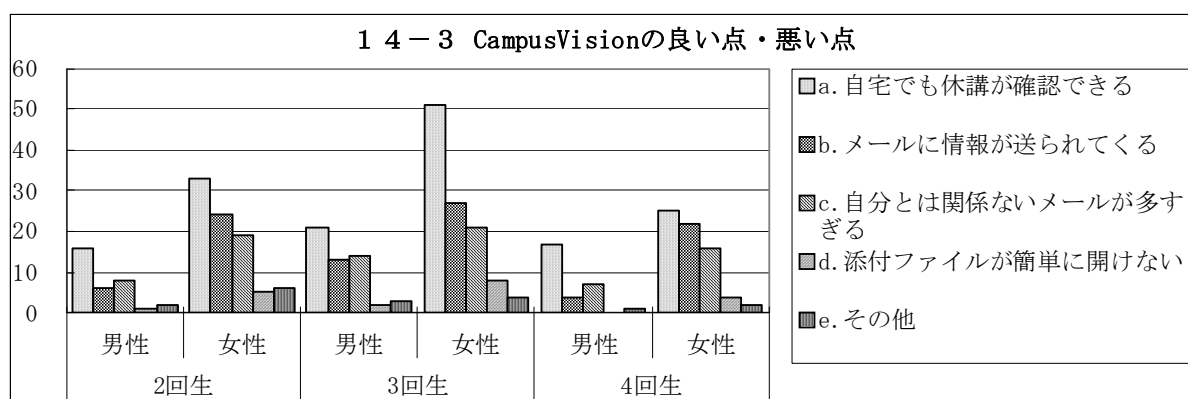
CampusVisionの利用形態は大きく下記の7通りに分類され、その利用状況はa「全て利用している」が82名・33.2%となり最も多く、つづいてb「メール受信とパソコンでのWeb利用」が54名・21.9%、c「メール受信と携帯電話でのWeb利用」が49名・19.8%、d「パソコンと携帯電話でのWeb利用」47名・19.0%、e「メール受信のみ利用」が1名・0.4%、f「パソコンでのWeb利用のみ」2名・0.8%、g「携帯電話でのWeb利用のみ」0名・0.0%という結果であった。当初の予想どおり「メール受信」を中心として利用しているとの結果であったが、予想以上にパソコンからの利用が多かった。これは大学側から発信される情報の中に、添付ファイルを含む情報が数多くある事と、学内のパソコンからWebサイトにアクセスする際の起動画面がCampusVisionである事から、利用度が高まったと推測される。



(3) CampusVision の良い点、悪い点を聞かせてください（複数回答可）（グラフ 1 4－3 参照）

CampusVision の良い点、悪い点を調査し、延べ 382 名から回答を得る事ができた。回答の詳細は a「自宅でも休講が確認できる」が 163 名・42.7%となり最も多く、つづいて b「メールに情報が送られてくる」が 96 名・25.1%、c「自分とは関係ないメールが多すぎる」が 85 名・22.3%、d「添付ファイルが簡単に開けない」が 20 名・5.2%、e「その他」が 18 名・4.7%という結果であった。良い点、悪い点共に当初の想定どおり「メールに関係する」意見をあげる学生が多数であった。

良い点では「情報を手軽に入手できる」点をあげている学生が多かったが、同時に「情報が手軽に入手できるが故に、「本来自分とは関係ない情報が数多く届く」ところを悪い点と回答する学生が多かった。悪い点の少数意見では「メールの届くのが遅い」、「同じメールが複数届く」等があった。メール受信に関しては、大学側が全学生を対象とした情報発信をおこなっても、学生自身、興味がないものを「余分な情報」と判断する傾向がある事が伺える。メールに送信される情報は本文のみで、添付ファイルの添付を行っていないにも関わらず「添付ファイルが簡単に開けない」等の意見が少ないことから、学生は CampusVision からの添付ファイルはメールでは受信できないと認識していると判断できる。

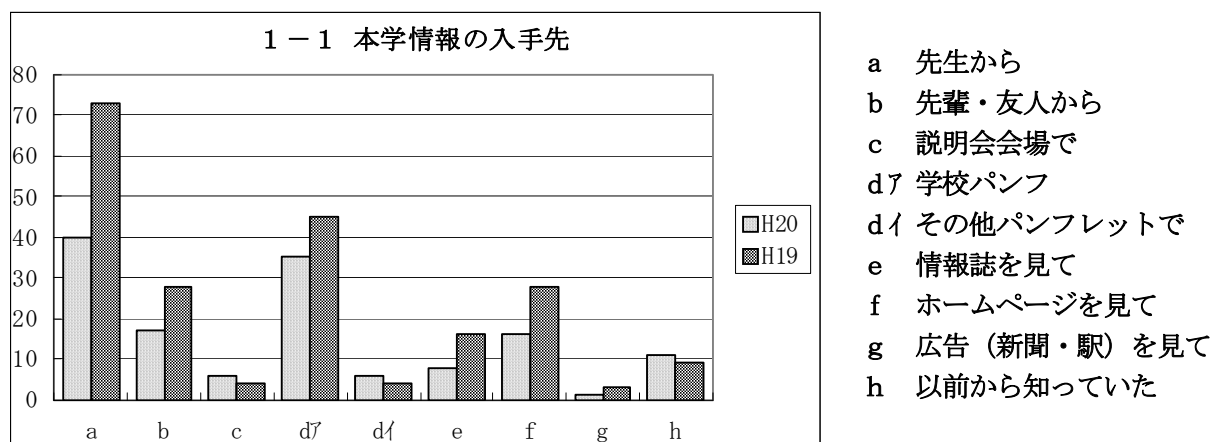


【今後の対応】

利用頻度が最も高い情報のメール送信の充実を図る事を今後の課題として検討し改善を図りたい。

II. 新入生対象の調査

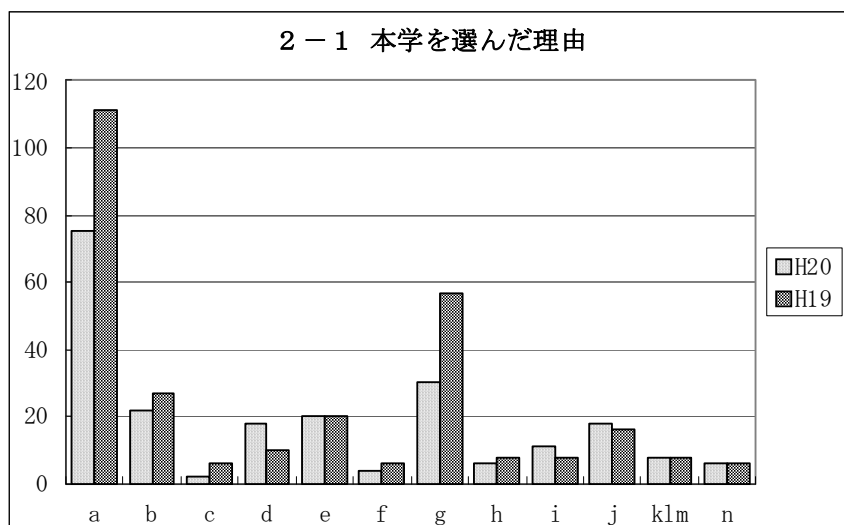
Q1. 本学（愛知みずほ大学）の名前を何で知りましたか。（複数回答可）（グラフ 1－1 参照）



全体としては、前年と同じ傾向が見られた。本学（愛知みずほ大学）の名前を知った情報源は、在学している学校の「先生からの情報」と答えた学生が最も多く、つづいて「学校で見たパンフレット」、「先輩・友人の薦め」、「ホームページを見て」という回答が多かった。この順位は前年と同様である。本年の方が回答数が多かった項目は「説明会会場」「その他パンフ」「以前から知っていた」という項目で、全体数が

減少している中で増加したということは注目すべきことかも知れない。特に「以前から知っていた」という項目には本学を何らかのことで知っている関係者が評価して勧めてくれたのだと思われる。

Q2. あなたが本学を選んだ理由は何ですか。(複数回答可) (グラフ2-1参照)



- a 勉強したい分野
- b 学力に合っている
- c カリキュラムが適切
- d 指導が良い
- e 少人数教育に関心
- f チューター制に関心
- g 資格取得のため
- h 就職率の高さ
- i 学費が安くてすむ
- j 先生の薦め
- klm 知人の薦めなど
- n 通学に便利

ここでも全体としては、前年度と同様の傾向が見られた。学生が本学を選んだ理由としては、「自分が勉強したい分野である」と答えた学生が最も多く、続いて「目指す資格を取得するため」、「自分の学力に合っている」「少人数教育に関心を持ったので」、「先生の薦め」「指導が良い」という回答が多かった。本年の入学者数が前年より減っているにもかかわらず増えている項目は、「指導が良い」「学費が安い」と「先生の薦め」である。これは口コミ等で教師の努力が少しは発揮されているのだろうか。経済的なことも受験生の親にとっては重要な問題であることがうかがえる。

前年、一昨年は、「自分が勉強したい分野である」、「目指す資格を取得するため」と回答した学生が突出して多く、自分の将来に向け目的意識を持って入学している学生が大半であると思われたが、本年は資格を取得するためという目的意識はそれほど多くない(33%→30%)。

gの「資格取得のため」本学を選んだ学生たちが目指す資格は下表(表2-1)の通りである。

表 2-1	教員免許	保健体育	養護	スポーツ関係	医療関係	社会福祉士	心理士	精神保健	合計
健康	3	2	10						15
心理			6					1	7
福祉						5			5
環境									0
合計	3	2	16	0	0	5	0	1	27

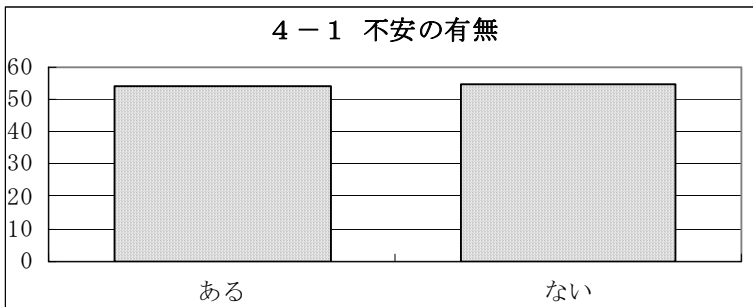
取得したい資格の内容は、教員免許では、①養護教諭16名、②保健体育教員2名、③教員免許(種類の記載なし)3名。全体としては教員の資格を取得しなくて入学した学生の割合は30%で、昨年33%より少なくなっている。コース別では、健康コースでは15名(33%→37%)が希望している。心理コースは7名(34%→25%)、福祉コースは5名(13%→33%)。心理コースは14名が7名に減り、心理士を目指す人が6名から0になっている。福祉コースは社会福祉士が1名から5名になっている。

Q3. あなたは、入学したら参加したい部、サークルなどがありますか。(表3-1)

学内		学外	
バスケットボール部	2	ダンス部	1
サッカー部	1		
テニス部	2		
野球部	1		
バドミントン	1		
バレーボール部	1		
ダンス部	1		
スポーツサークル	0		
水泳部	2		
陸上部	1		
スケート部	1		
ソフト部	1		
計	14	計	1

部活動への参加意欲は一昨年56名が前年32名になり、本年は15名、割合から見ると大幅な減少である(06年=27%、07年=24%、08年=17%)。これは、これからの大学の学生による活動等にも大きく影響してくると思われる。主に部活動をする学生が学生会の活動を担ってきており、学生会に参加する学生が大学祭等を積極的に盛り上げてきた経緯があるだけに気がかりである。

Q4. 現在、あなたは不安なことや心配なことがありますか。(グラフ4-1参照)

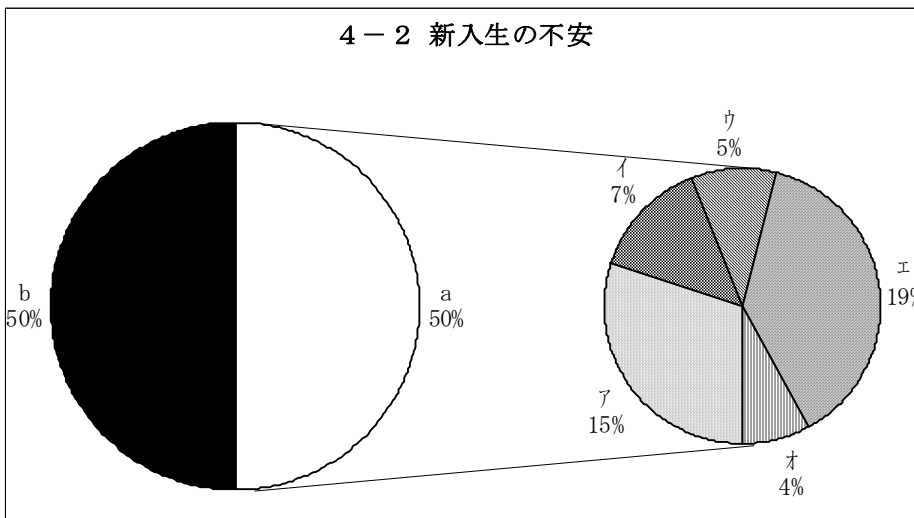


(あるに○をつけた学生は複数の不安をもっているのでa+bはデータ総数より多い)
a=「ある」、b=「特にない」

実際にはわからないがデータ上は前年と比べると、悩みを抱えている学生は減っている。(53%→39%)

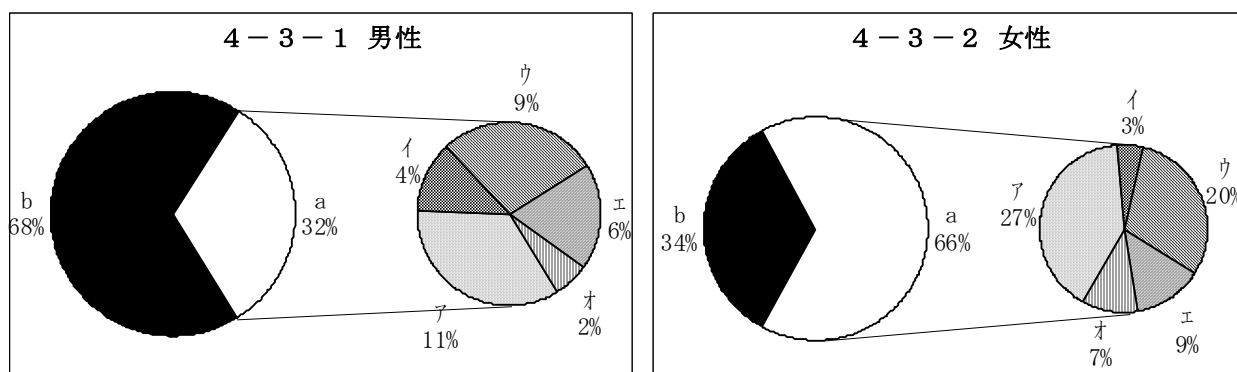
次に「ある」と答えた内容を分析した。(グラフ4-2参照)

「ある」と答えた内容の構成順序は、前年と変わらず、学習、友人づくり、経済面と続いている。



a ある
ア学習関係
イ心身の健康
ウ友人づくり
エ経済的問題
オその他
b ない

次に男女別の状況を見る（グラフ4-3、4参照）



男女別では、女性（22人）が男性（13人）より不安を抱えている。その内容はどちらも学習面の不安が一番大きいが、友人づくりの不安も大きいようだ。

さらに具体的に不安、心配を見ていく。

表4-1 不安項目ごとのコース内の件数と割合

	学習		心身		友人		経済		その他		合計
健康	10	24.4%	3	7.3%	7	17.1%	4	9.8%	3	7.3%	27
心理	9	32.1%	1	3.6%	8	28.6%	4	14.3%	2	7.1%	24
福祉	2	13.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2
環境	0	0.0%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	1
件数	21		4		16		8		5		54

*網掛け部分は項目内で一番高いコース

不安項目をコースごとに分析してみると、学習面では心理コースが、心身の健康の面では健康コースが、経済的な面では心理コースが、それぞれ高い値を示している。これは前年と同じ傾向である。

不安の内容の具体的記述は43件（1人あたり0.5件）で、ア「学習関係」=35%、ウ「友人づくり」=30%、エ「経済的問題」=12%、イ「心身の健康」=7%、オ「その他」=16%である。

表4-2 「学習関係の不安」の内訳

勉強についていけないか	11
まったくできないので不安	1
英語が苦手だったのでものにしたい	1
英語・数学が苦手	1
情報・英語が苦手	1
計	15

まったくできないと学習に不安を抱えている。具体的な記入としては、英語、数学、情報に特に不安を抱えており、前年と同様であった。

表4-3 「心身の不安」の内訳

足に障害があるので運動についていけないか	1
一人暮らし	1
環境に慣れるか	1
計	3

不安の件数は3件と他項目よりは少ない。この不安の内容は、氷山の一角と思われる。入学後の学生生活を続けられない学生の多くは、深刻な悩みを抱えており、このアンケートには書くのをためらって表面に出していないだけであろう。この悩みのため不登校になり、退学していく学生が予想以上に多く存在する。

深刻な問題である。

表4-4 「友人づくり」の不安の内訳

友達が作れるか	9
人見知りなので友人ができるか	3
一人だから	1
計	13

学生生活にとって大事な友人である。人見知りなので良い友人ができるかどうか心配している。大学の学生は自分に自信が持てない学生が多く、特に内向的な学生はこの問題に不安を抱えている。

表4-5 「経済的問題」の不安の内訳

奨学金をもらえるか	2
学費を期限までに納入できるか	1
通学費・学費親の負担が大きい	1
一人暮らしの生活費	1
計	5

学費が払えるか、奨学金をもらえるか不安に思っている。ここでも一人暮らしができるか心配している。経済的な問題面の不安も大変深刻な悩みである。学費の滞納者も多く、このため途中で退学せねばならない学生が少なくない。世の中の経済情勢がますます不景気になり、深刻な悩みになっている。

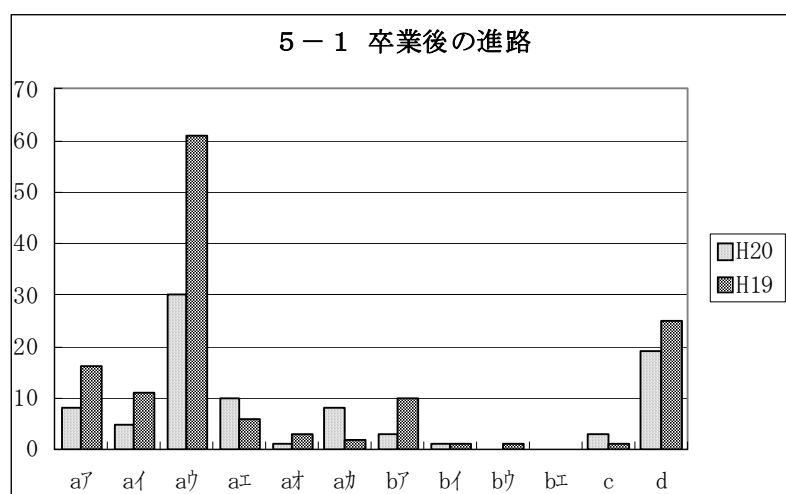
表4-6 「その他」の不安の内訳

一人暮らし	3
通学に時間がかかる	1
通学がちゃんとできるか	1
4年間頑張れるか	1
周りの人の性格	1
計	7

遠距離通学については前年と同様2件記入されていた。ここでも一人暮らしが不安という者がおり、初めての下宿生活は想像以上の重圧のようだ。下宿生にはその点、気を配ってやらなければならない。一方、通学生には遠距離通学を心配してやらなければならない。

Q5. あなたは現時点で、卒業後の方向についてどう考えていますか

「何らかの方向を考えている」との回答が全体の77%である。(グラフ5-1参照)

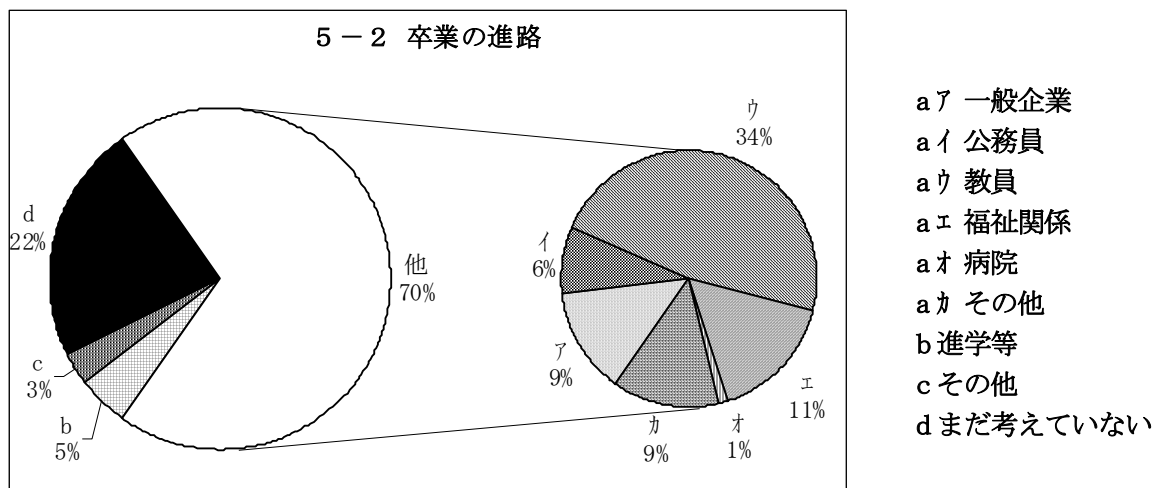


- aア 一般企業
- aイ 公務員
- aウ 教員
- aエ 福祉関係
- aオ 病院
- aカ その他
- bア 大学院
- bイ 専門学校
- bウ 留学
- bエ その他
- c その他
- d まだ考えていない

卒業後の進路で「就職する」と答えた学生で、就職したい先を「教職」としている学生が最も多く(30名)、

つづいて「福祉関係」という結果となった。この順位は前年とは異なっている。前年の2位は「一般企業」、3位は「公務員」であった。表2-1の目指す資格のところでは教員資格は21名が目指していたが、ここでは30名が卒業後の進路を教師としている。前年も同様な傾向がみられた。矛盾しているようだが、希望は教師だが資格を目指すのは容易ではないという気持ちがこの数字に表れているのかもしれない。

卒業後の進路を図示すると下図の通り。(グラフ5-2参照、右の円グラフはa「就職する」の内訳)



Q6. その他何か述べたいことがあれば、書いてください。

表6-1 その他

迷惑をかけてしまいますが、よろしく
平和が一番
相談員はいるのか

以上、入学者数の減少で統計処理の意味がない項目もあったが、前年と同様の傾向が見られる質問もあった。グラフ1-1の本学の情報入手先やグラフ2-1の本学を選んだ理由等である。一方、少し違う傾向を示したのは卒業後の進路である。第1位の教員は同じだが、第2位一般企業、第3位公務員より、福祉関係が上位となっている。不安・心配の項目では学習、友人づくりが多いが、表面に出ていないが心身の健康不安、経済的問題の不安は深刻である。一人暮らしができるか心配しているのはこの面からかもしれない。

この問題の支援は、教員がきめ細かい指導をしても、問題の内容が深刻でなかなか力の及ばない場合もあるのが残念である。

以上

《参考1》

在学生用

アンケート調査のお願い

H20 年度

愛知みずほ大学・学生委員会

私たちは、学生生活の実態やその背景にある意識を知って、学生の皆さんがよりよい学生生活が過ごせるように改善を図っていきたいと考え、数年おきに学生生活に関するアンケートを実施しています。皆さんに、アンケート調査への参加とその回収についてのご協力をぜひお願いします。

最初に以下の項目にお答えください。

該当する記号（a～h、A～K、①～②）を○で囲み、括弧内には適当な語を記入してください。

- (コース・学科) a. 健康科学コース b. 心理・カウンセリングコース
 c. 人間福祉コース d. 人間環境情報学科
- (学年) a. 2回生 b. 3回生 c. 4回生
- (性別) a. 男性 b. 女性

1. あなたの生活について伺います。

- (1) あなたは自宅通学ですか。下宿していますか。
a. 自宅 b. 下宿 c. その他 (.....)
- (2) あなたはアルバイトをしていますか。
a. している (月.....回、計.....時間くらい、収入 計.....円 くらい)
b. していない

2. あなたは前年度(H19年4月からH20年3月まで)、週に何日くらい大学に来ていましたか。
(.....) 日/週

3. 部活動等について伺います。

- (1) あなたは学内のクラブ・同好会に参加していますか。
a. 参加している
b. 以前は参加していたが、やめた (理由.....)
c. 参加していない
- (2) あなたは学外の同好会・サークル等に参加していますか。
a. 参加している
b. 以前は参加していたがやめた (理由.....)
c. 参加していない (理由.....)

4. (1) 現在、あなたは不安なことや心配なことがありますか。

- a. ある (該当する項目を○で囲み、具体的に説明してください)
- ア. 学習関係 (.....)
- イ. 心身の健康 (.....)
- ウ. 友人づくりや友人関係 (.....)
- エ. 異性関係 (.....)
- オ. 経済的問題 (.....)
- カ. 資格取得 (.....)
- キ. 就職 (.....)
- ク. その他 (.....)
- b. 特にない

- a. 満足している
 - b. ほぼ満足している
 - c. 普通である
 - d. 満足していない (思っていることがあれば書いてください。)
- (.....)

8. あなたは本学の事務職員・図書館職員の対応についてどう思いますか。

- a. 満足している
 - b. ほぼ満足している
 - c. 普通である
 - d. 満足していない (思っていることがあれば書いてください。)
- (.....)

9. あなたは、現時点では、卒業後の進路をどのように考えていますか。

(以下の a~f の中から希望進路を選んで○で囲み、さらにア~カから選んで○で囲んで下さい)

- a. 定職について働く
 - ア. 一般企業 イ. 公務員 ウ. 教員 エ. 福祉関係
 - オ. 病院関係 カ. その他 (.....)
- b. 知識を深めるために勉強する
 - ア. 大学院 イ. 専門学校 ウ. 留学 エ. その他 (.....)
- c. 定職にはつかず、やりたいことを探す
 - ア. 海外青年協力隊 イ. ボランティア ウ. NGO 活動
 - アイウ→補足説明 (地域など))
 - エ. フリーター (① 目的はある ② 目的は特にない)
 - 目的は何ですか (.....)
- d. 実家に戻る
 - ア. 家業の手伝い イ. 家事手伝い ウ. 何もしない
- e. 今のところ何も考えていない
- f. その他 (.....)

10. 通学手段などについて伺います。

(1) あなたは通学に何を利用していますか (バスにはスクールバスを含む)

- a. 電車 b. 電車+バス c. バス d. バイク
- e. 原付 f. 自転車 g. 徒歩 h. その他 (.....)

(2) あなたはスクールバスを利用していますか。

- a. よく利用している
 - b. 時々利用している
 - c. 利用していない
- ▶ 上で a か b を選んだ人はスクールバスについてどう思いますか。
- ア. ほぼ満足している
 - イ. 満足していない (.....)

(3) あなたは「運転免許証」を持っていますか。

- a. はい b. いいえ c. 現在取得に挑戦中
- ア. あなたは自分が主として使用できるクルマを持っていますか。 ① はい ② いいえ
- イ. あなたは自分が主として使用できるバイク(除原付)を持っていますか。 ① はい ② いいえ

ウ. 上のア、イで「①はい」の場合、それらを通学に使ったことはありますか。① はい ②いいえ

1 1. 本学の良い点、悪い点について聞かせて下さい。

(1)本学の良い点は何ですか。

- a. 良い点がある (具体的に:)
b. 特に思い当たらない

(2)本学の良くない点は何ですか。

- a. 特に思い当たらない
b.良くない点がある (具体的に:)

1 2. セクシャル・ハラスメント(セクハラ)について伺います。(複数可)

(1) 本学では「セクハラ防止に関する規定」を設け(「HANDBOOK」に掲出)、相談員を定めています(掲示板に掲出)。このことは知っていましたか。

- a. 規定も相談員も知っている b. 規定は知っている c. 相談員は知っている
d. 規定も相談員も知らない e. その他(.....)

(2) あなたは、学内で、セクハラを受けたり、感じたりしたことがありますか。

- a. ある b. ない

①どんなケースですか。

- ア. 教職員から イ. 友人・先輩などから ウ. その他

②その時どうしましたか。

- ア. その場で拒否・抗議の姿勢を示した イ. 我慢して無視した
ウ. 相談員や他の先生・友人などに相談した エ. その他(.....)

③その状況を教えられる範囲で教えてください(いつ、どこで、誰から、どんなとき、どんな風に)
(.....)

(3) あなたは、ストーカー被害にあったことがありますか。

その状況を教えられる範囲で教えてください(いつ、どこで、どんな人から、どんなとき、どんな風に)
(.....)

1 3. 本学は「社会に向き合う大学」として、豊田市や大学周辺の地域との関係を重視しています。あなたは、豊田市や大学周辺地域で行われる活動に参加してみたいと思いますか。

- a. 豊田おいでんまつり
b. 市民を対象にしたマラソンなどのスポーツ行事
c. 市内の小・中学校でのボランティア活動(学習指導、行事手伝いなど)
d. 環境や歴史・文化など地域のことを学ぶ行事や講座
e. 本学学生がおこなう地域でのボランティア活動(「学生によるまちづくりの会」、清掃活動など)
f. 社会福祉施設などでのボランティア活動

1 4. キャンパスビジョン(Campus Vision)について伺います。

(1) Campus Vision のメール配信機能を利用していますか。

- a. 利用している b. 利用していない

利用していない理由: ア. 存在を知らなかった イ. 使い方がわからない
ウ. 使わなくても困らない エ. その他(.....)

(2) パソコンから Campus Vision を利用していますか。

- a. 利用している 頻度：ア. ほぼ毎日 イ. 週に____回 ウ. 月に____回
場所：ア. 学内 イ. 学外 ウ. 学内・学外両方
- b. 利用していない 理由：ア. 存在を知らなかった イ. 使い方がわからない
ウ. 使わなくても困らない エ. その他 (.....)

(3) 携帯電話 (iモード、EZWeb、Yahoo!ケータイ) から Campus Vision を利用していますか。

- a. 利用している 頻度：ア. ほぼ毎日 イ. 週に____回 ウ. 月に____回
場所：ア. 学内 イ. 学外 ウ. 学内・学外両方
- b. 利用していない 理由：ア. 存在を知らなかった イ. 使い方がわからない
ウ. 使わなくても困らない エ. その他 (.....)

(4) Campus Vision からのメール配信の頻度についてどう思いますか。

- a. 多すぎる b. ちょうどよい c. 少なすぎる

(5) Campus Vision の「添付ファイル」を開いたことがありますか。

- a. 開いたことがある b. 開いたことがない
- 開いたことがない理由：ア. 添付ファイルが何かわからない イ. 開き方がわからない
ウ. パソコンを利用するのが面倒 エ. その他 (.....)

(6) Campus Vision の良い点、悪い点があれば聞かせてください。(複数可)

- a. 自宅でも休講が確認できる b. メールに情報が送られてくる
c. 自分と関係しないメールが多すぎる d. 添付ファイルが簡単に開けない
e. その他 (.....)

(7) Campus Vision で他に配信して欲しい情報や、ご意見があれば聞かせてください。

(.....)

ご協力ありがとうございました。(回収は、ロビーの掲示板前と食堂前にある回収箱をお願いします。)

《参考2》

(1年・編入生用) アンケート調査のお願い H20年度

愛知みずほ大学

皆さんは、新たに愛知みずほ大学での生活をスタートされますが、私たちは皆さんがより良い学生生活が過ごせるようにお手伝いしていきたいと考えています。皆さんをよく理解するため、どんな契機で本学に来られ、どんなことを気にしておられるのかなどについてのアンケートを実施したいと思います。皆さんのアンケート調査へのご協力をお願いします。

まず最初に以下の項目にお答えください。該当する記号(a~p、A~カ)を○で囲み、適語を記入して下さい。

(コース・学科) a.健康科学コース b.心理・カウンセリングコース

c.人間福祉コース d.人間環境情報学科

(学年) a.1回生 b.編入生

(性別) a.男性 b.女性

1. 本学(愛知みずほ大学)の名前を何で知りましたか。(複数回答可)

a.先生から聞いて

b.先輩・友人から聞いて

c.説明会の会場で(該当する会場を記入して下さい)

大学展(その地区名は.....)

その他の会場(具体的に.....)

d.愛知みずほ大学作成のパンフレット・大学案内資料を見て

パンフレットや案内資料はどこで見ましたか(該当する項目を囲んで下さい)

ア.学校で イ.その他(.....)

e.情報誌の大学案内資料を見て

(誌名や出版社名がわかっていたら記入して下さい.....)

f.愛知みずほ大学のホームページを見て

g.新聞広告や駅での広告を見て

h.以前から知っていた

ア.周りに瀬木学園出身者がいるから イ.兄弟や周りに本学に通学している人がいるから

ウ.その他.....

i.その他(.....)

2. あなたが本学を選んだ理由は何ですか。(複数回答可)

a.自分が勉強したい分野である

b.自分の学力に合っている

c.カリキュラムの内容が適切(特にどんな分野・系統ですか.....)

d.教育・指導が良いと聞いた

e.少人数教育に関心を持ったので

f.チューター制に関心を持ったので

- g. 目指す資格を取得するため（具体的資格.....）
 - h. 就職率の高さ
 - i. 学費が比較的安くすむ
 - j. 先生のすすめ
 - その先生はどこ先生ですか（該当する項目を囲んで下さい）
 - ア高校の先生 イ短大の先生 ウその他（.....）
 - k. 先輩・友人のすすめ
 - l. 親・兄弟・親戚などのすすめ
 - m. 兄弟・親戚・先輩・知人が在学・卒業している
 - n. 通学に便利である
 - o. 特にない
 - p. その他.....
3. あなたは、入学したら参加したい部、同好会、サークル、団体などがありますか。
- a. 学内にある（具体的に.....）
 - b. 学外にある（具体的に.....（既に加入済みを含む））
 - c. まだわからない
 - d. 特にない
4. 現在、あなたは不安なことや心配なことがありますか。
- a. ある（該当する記号を囲み、説明して下さい）
 - ア学習関係（具体的に.....）
 - イ心身の健康（具体的に.....）
 - ウ友人づくり（具体的に.....）
 - エ経済的問題（具体的に.....）
 - オその他（具体的に.....）
 - b. 特にない
5. あなたは現時点で、卒業後の方向についてどう考えていますか。
- a. 就職する（該当する記号を囲んで下さい）
 - ア一般企業 イ公務員 ウ教員 エ福祉関係 オ病院 カその他（.....）
 - b. 進学する（該当する記号を囲んで下さい）
 - ア大学院 イ専門学校 ウ留学 エその他（.....）
 - c. その他
 - d. まだ考えていない
6. その他に何か述べたいことがあれば、書いてください。